



今号の紙面から ● 3面 災害への備え ● 4面 ご利用ください マイナンバーカードセンター



①庭の水まき



②雑草取り



③裾上げ



④団体の定例会の様子

市内には、一人暮らしや高齢者のみの世帯が増えています。みんなが元気で、安心して暮らし続けていくためには、困った時は助けたり助けられたり、近所同士、お互いさまの気持ちで支え合うことが大切です。

市では、高齢者やその家族が、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることを目指して、「町田市いきいき長寿プラン21-23」を策定しました。その施策の一つとして、支援が必要になっても、住み慣れた地域で自分らしく生活できるように、地域の支え合いを推進します。ここでは、生活支援団体とそのネットワークを紹介します。

問 高齢者福祉課 ☎ 724・2146

「お互いさま」 の支え合い。

ずっと元気でいたいから

生活支援 団体とは

日常生活を送るうえでちょっとした支援が必要な方に対して、ボランティア(有償・無償)で、買い物・掃除・話し相手などのお手伝いをするグループのことです。市内では、有志団体や自治会等が母体となる団体、NPO団体などさまざまなグループが活動しています。

interview

生きがいを持って活動する生活支援団体のボランティアさん

三輪緑山ボランティアの会 絆

①始めたきっかけ

元々付き合いがあり買い物支援などを行っていた知人から、ボランティア団体を立ち上げてほしいという要望があったことがきっかけです。

②取り組むうえで大切にしていること、やりがい

活動者同士のコミュニケーションを大切にしています。毎月1回活動者の定例会を開催し、活動の振り返りや今後に向けた情報交換を行っています。

③今後の展望

地域には、こういった活動を知らず、悩んでいる方もまだまだいるように思います。困りごとによっては、ボランティアだけで解決できないものもありますが、隣近所の住民同士がお互いに支え合えるまちにしていきたいと思っています。

(左写真①・②・④)

藤の台たすけあいの会

①始めたきっかけ

藤の台団地自治会として、住民の役に立つことをしたいという思いから、1999年に会を発足し、20人ほどのメンバーで活動を開始しました。

②取り組むうえで大切にしていること、やりがい

ちょっとした作業をお手伝いし、「ありがとう」の言葉をいただくと励みになります。活動に参加することで地域に顔見知りの人も増え、コミュニケーションをとる機会も多くなりました。

③今後の展望

現在は50代～80代の方が活動に参加しています。会社勤めをしても、粗大ごみの搬出など力仕事に手を貸してくれる方もいます。活動者も利用者も気楽に声を掛けあえる家族のような関係で続けていきたいと思っています。

(左写真③)

利用者さんに聞いてみました
～利用したきっかけ

10年くらい前に、回覧板で「絆」の存在を知りました。これまで、雑草取り、部屋の掃除や、植え込みの水まきなど、「絆」さんをお願いしてきました。今、お越しいただいている方も、一生懸命にやっただけ、良い意味で気を使わない方で助かっています。



利用した際のチケット